

# 市民おもしろ塾

## 講座150回の節目に

### 英心さん登壇、演奏も披露

能代市の市民おもしろ塾（渡邊耕佑代表）の講座が21日、150回の節目を迎えた。平成28年からおおむね月2回ペースで開き、住民に学びの場を提供している。この日は記念講演会・演奏会を市文化会館中ホールで開き、三種町鹿渡の松庵寺副住職でミュージシャンの渡邊英心さんが登壇。オリジナル曲の演奏を交えながら仏教の教えや自らの歩みを紹介し、来場者を楽しませた。

おもしろ塾は平成28年6月、高校の同期生らが古希を機に、能代を活性化させ市民を元気にしようとして設立。同年9月に開講し、文化、歴史、自然、医療など硬軟織り交ぜた幅広い題材を取り上げている。同市在住者や出身者7人が運営委員、3人が協力員となつて講座の運営を支えるとともに、正会員18人、賛助会員68人が年会費を納めて活動をバックアップしている。市の補助金も活用。

150回の節目となる21日は、約1200人が来場した。渡邊代表があいさつし、

「市民や各団体に支えられて運営してきたこと感謝。さらに「能代にはどんな歴史、産業、自然があるのか。孫に『ジジババが育った能代にはこれがある』と見せた」との思いがあり、文化財を保全する施設の設置を求める陳情も行ったとし、

「講座を続け、能代の文化を見詰め直したい」と意欲を語った。

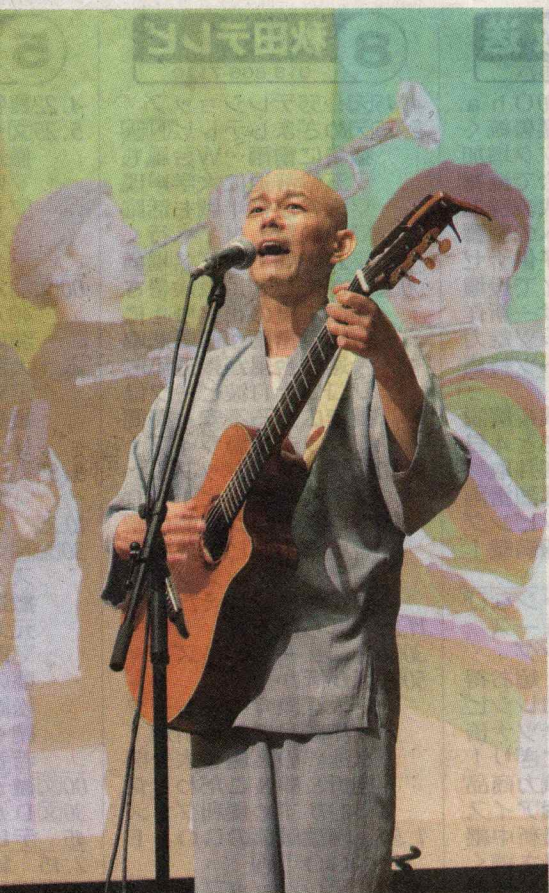
県生涯学習センターの松岡正利所長は「比較的新しい市民団体だが、150回を迎えることに驚いている。熱心で活発な活動に敬意を表する。生涯学習の視点を取り入れている理想的な活動」とたたえた。

記念講演会・演奏会では、渡邊英心さんが「輝く今と一緒に生きよう〜お寺とカフェと音楽のお話&ライブ」と題して登壇した。思春期に「寺を継がないといけない。自分は鳥かごにいる」ともやややし、パンクロックに没頭したところ」を求めて上京し、大学時代にラテン音楽にのめり込んだことを振り返った。

永平寺（福井県）での修行はきつかったが、事故で骨折し修行を離れ、再び復帰したとき、「いろんな人の力があって座禅ができた。涙が出てきた。お坊さんとしての自覚が芽生えた」。さらに、ブラジルの寺院での勤務やアマゾン川の旅、キューバ人との出会いを経て、「一人ひとりがかけがえない存在であること」に気付く一方、自分のルーツを考えたとし、「もと

も自分にあるものは木魚やご詠歌、盆踊りの太鼓。ルーツと出会ったものを大切にしたい」と述べた。

仏教の教えについて「この世のすべては縁によってなる」としたほか、「生老病死は人間が平等に持つ苦しみ。『大丈夫、あなただけじゃない』と背中をトントンしてくれる優しさが仏教にはある。いいでしょう？ 仏教」と来場者に語り掛けた。また、自らの歩みに合わせてオリジナル曲を演奏。秋田弁をラテンのリズムに乗せた「Oi Bamba!」では会場を大いに沸かせた。



歩みを振り返り、オリジナル曲を熱唱する英心さん



多くの来場者が楽しい時間を過ごした第150回記念講演会・演奏会